

平成23年度
第38期

事業報告書
決算報告書

自 平成23年1月1日
至 平成23年12月31日

東京都中央区八丁堀2-13-4 第三長岡ビル5階
財団法人 岩谷直治記念財団

目 次

I	事業報告	1
	事業概況と実績	1
	累計事業実績	2
	1. 岩谷科学技術研究助成	4
	2. 岩谷直治記念賞	6
	3. 国際交流	6
	4. 広報活動	8
	5. 収支	8
	6. 主要事業日誌	9
II	決算報告	10
	1. 貸借対照表	11
	2. 正味財産増減計算書	12
	3. 財産目録	14
	4. 財務諸表に対する注記	15

I 事業報告

事業概況と実績

当財団は科学技術に関する研究開発の助成および奨励、国際交流の推進のための援助並びに人材の育成を行なうことにより、科学技術全般の一層の発展を図り、もって国民生活の向上および国際的な相互理解の促進に寄与することを目的としております。その達成のために平成23年度においては、つぎの事業を実施いたしました。

1. 科学技術に関する研究の助成

岩谷科学技術研究助成	20件	3,959万円
------------	-----	---------

2. エネルギー及び環境の分野における成果の表彰

岩谷直治記念賞	1件	300万円
---------	----	-------

3. 国際交流の推進

岩谷国際留学生奨学助成	10名	2,241万円
-------------	-----	---------

表 - 1

累計事業実績

(単位：万円)

回	年度	研究助成金		記念賞		留学助成金		国際交流		人材育成	
		件数	金額	件数	金額	人数	金額	件数	金額	件数	金額
1	昭和49年度	15	3,630	1	100						
2	昭和50年度	15	3,450	2	200	6	312				
3	昭和51年度	13	3,000	0	0	5	318				
4	昭和52年度	13	3,100	1	100	5	354				
5	昭和53年度	13	3,550	1	100	7	414	3	82		
6	昭和54年度	12	3,000	1	100	5	391	1	50		
7	昭和55年度	13	3,000	2	200	7	514	4	387		
8	昭和56年度	13	3,000	1	100	12	866	6	376		
9	昭和57年度	12	3,000	1	100	10	876	2	94		
10	昭和58年度	13	3,000	0	0	9	837	8	756		
11	昭和59年度	15	3,070	1	100	12	1,026	6	410		
12	昭和60年度	14	2,870	0	0	11	1,173	3	270		
13	昭和61年度	15	3,000	1	100	11	1,182	2	245		
14	昭和62年度	15	3,080	0	0	12	1,380	4	100	1	1,000
15	昭和63年度	17	3,400	2	200	11	1,240	3	100	1	1,000
16	平成元年度	17	3,230	0	0	13	1,470	9	340	1	1,000
17	平成2年度	15	3,000	2	400	13	1,447	4	167	1	1,000
18	平成3年度	16	3,100	1	200	10	1,250	5	284	1	1,000
19	平成4年度	16	3,160	1	200	10	1,210	13	741	2	1,100
20	平成5年度	19	3,600	1	200	11	1,755	9	384	2	1,050
21	平成6年度	19	3,600	0	0	13	2,115	7	483	2	1,050
22	平成7年度	19	3,800	0	0	12	2,100	12	431	3	1,070
23	平成8年度	18	3,600	2	600	12	2,025	6	230	3	1,070
24	平成9年度	20	3,600	1	300	11	1,980	7	275	3	1,220
25	平成10年度	19	3,600	2	600	11	2,025	5	372	3	1,300
26	平成11年度	18	3,600	1	300	11	1,980	8	332	4	1,331
27	平成12年度	18	3,600	1	300	11	2,025	7	282	4	1,200
28	平成13年度	19	3,600	1	300	11	1,950	10	784	3	1,250
29	平成14年度	19	3,600	1	300	11	1,920	6	220	2	1,100
30	平成15年度	18	3,600	1	300	11	1,935	7	240	2	1,065

回	年度	研究助成金		記念賞		留学助成金		国際交流		人材育成	
		件数	金額	件数	金額	人数	金額	件数	金額	件数	金額
31	平成16年度	17	2,550	1	300	7	1,440	5	155	1	500
32	平成17年度	17	2,452	1	300	7	1,305	0	0	1	500
33	平成18年度	19	3,614	2	600	8	1,530	5	230	1	500
34	平成19年度	18	3,504	1	300	10	1,755	6	230	1	500
35	平成20年度	18	3,579	1	300	9	1,785	8	380	1	500
36	平成21年度	18	3,515	0	0	9	1,920	6	263	1	500
37	平成22年度	19	3,717	1	300	11	2,385	6	260	1	500
38	平成23年度	20	3,959	1	300	10	2,241	—	—	—	—
	累 計	624	126,330	37	7,800	365	52,431	193	9,953	45	22,306

累計額 218,820万円

注1. 「国際交流」及び「人材育成」に関する事業は、公益法人への移行に対応するため平成23年度より中止しました。

1. 岩谷科学技術研究助成

①助成対象

資源、エネルギーおよび環境（太陽エネルギー、水素エネルギー、低温とその利用なども含む）などに関する重要かつ独創的な研究。

②助成金総額 3,959万円 20件

③推薦期間 平成23年6月1日～平成23年7月31日

④推薦依頼先

国立大	59	私立大	39	公立大	7	高専	2	計	107
-----	----	-----	----	-----	---	----	---	---	-----

⑤推薦件数 140件（前年度 144件）

⑥選考経過と結果

a. 第1回選考委員会（9/22）

選考方法は昨年度と同じく、1テーマについて2名の選考委員審査とした。担当するテーマは選考委員の希望に基づいて決定。採点は5点法とした。本年度の応募件数は140件を数えたため、1人当りの審査件数は21～26件。

b. 書類審査

担当するテーマを審査し、担当テーマのうち5点は10%（2～3件）、4点は20%（5～6件）を選び、審査内容を添付の上選考委員長に提出。

c. 第2回選考委員会（10/27）

各委員から提出された審査報告をもとに、2名の選考委員の合計点が9点以上の案件を推薦。ついで合計点が8点のものについて総合的な検討を重ね、助成候補として計20件が推薦された。

⑦決定

選考委員会推薦の20件を第66回評議員会に諮り承認後、理事長が別表20件を助成対象に決定した。

表-2 第38回(平成23年度)岩谷科学技術研究助成金受領者

	大 学 (所 属)	職 名 研究者名	研 究 テ ー マ	助成金額 (千円)
1	日本大学 理工学部	助教 梅垣 哲士	機能性球状中空材料の微細構造制御と触媒酸化活性に対する効果に関する研究	2,000
2	名古屋工業大学 大学院工学研究科	准教授 柿本 健一	無鉛圧電セラミックスを利用した高温振動力発電の研究	2,000
3	島根大学 総合理工学部	教授 梶川 靖友	新規ヘテロ接合を用いた赤外光起電力デバイスの開発	2,000
4	東北学院大学 工学部	特別研究員 簡 梅芳	水銀汚染水の生物学的除去・回収するバイオリアクターの開発	2,000
5	崇城大学 工学部	教授 草壁 克己	リサイクル廃油からの省エネルギー生産を目的としたバイオディーゼル研究	2,000
6	宇都宮大学 大学院工学研究科	准教授 佐藤 剛史	高温高圧水へのバイオマス溶解と部分酸化反応を利用した低温水素製造プロセス	1,925
7	東北大学 大学院理学研究科	講師 清水 宗治	有機薄膜太陽電池を指向した歪みフラクシオンを用いたワロン分子の配列制御と物性解明	2,000
8	東京工業大学 大学院理工学研究科	准教授 谷口 泉	流動層式滴下燃焼法を用いたナノ複合体電極材料の合成	2,000
9	愛媛大学 無細胞生命科学工学研究センター	教授 戸澤 譲	希少糖の膜輸送制御系を利用する新バイオ燃焼生産技術	2,000
10	北海道大学 大学院工学研究院	准教授 中村 祐二	低温(～200℃)付近でのDME爆発危険性に関する基礎研究	2,000
11	広島大学 大学院理学研究科	教授 灰野 岳晴	高次ナノ分子配列空間の精密制御と機能	2,000
12	八戸工業高等専門学校 物質工学科	准教授 長谷川 章	金属ジオレートの熱分解による Neo Zirconia の創製とその触媒特性	2,000
13	名古屋工業大学 工学部	助教 平山 裕	磁界共振型無線電力伝送による新しいエネルギー輸送システムの研究	2,000
14	群馬大学 大学院工学研究科	助教 松井 雅義	バイオ燃料電池用ナノカーボン材料の開発	2,000
15	東京工業大学 グローバルエッジ研究院	フェニックス・トラック助教 道信 剛志	フレキシブルバッテリー用固体高分子電解質の開発	2,000
16	長崎大学 大学院工学研究科	教授 森口 勇	大容量 Li イオン二次電池用新規ナノ活物質材料の創製	2,000
17	筑波大学 大学院数理物質科学研究科	教授 守友 浩	バインダーフリーなリチウムイオン電池用薄膜電極とカラー電池	2,000
18	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科	助教 山田 剛史	気体燃料生産へ向けた植物系プラスチック廃材のカスケード利用	2,000
19	九州大学 大学院工学研究院	准教授 山本 剛	非平衡プラズマと火炎の融合燃焼法による難分解性廃油の高度利用技術の開発	2,000
20	九州大学 大学院総合理工学研究院	助教 湯浅 雅賀	金属空気電池の二次電池化に向けた導電性酸化物空気極のナノ構造制御	1,660

計 39,585

2. 岩谷直治記念賞

開発業績の主題は、従来どおり「エネルギー及び環境」分野での新しい資源化技術、効果的な利用技術および環境・安全に関する研究開発を対象とし、関連学・協会及び関係団体に6月1日から8月31日にかけて推薦を依頼したところ、4件の推薦があった。

第2回選考委員会（10/27）における最終審査の結果、JFEスチール（株）の「炭化水素ガスを活用した鉄鉱石焼結プロセスの開発」は大変優秀な開発業績であり、記念賞に値するとして選考委員会より推薦された。本案件について第66回評議員会に諮り承認後、理事長が記念賞に決定した。

表-3 第38回（平成23年度）岩谷直治記念賞受賞者

所 属	代 表 者	推 薦 者	業 績 テ ー マ
JFEスチール株式会社 製鉄技術部	常務執行役員 製鉄技術部長 西村博文	社団法人 日本鉄鋼協会 会長 友田 陽	炭化水素ガスを活用し た鉄鉱石焼結プロセス の開発

3. 国 際 交 流

①第37回（平成23年度）岩谷国際留学生奨学助成

a. 採用概況（応募期間：22.12.1～22.12.20）

応募総数505名（前年441名）のうち、書類審査・面接により表-4の10名を決定した。

b. 交流活動

留学生との親睦を図るため、次の例会を開催しました。

第1回（4/15）鉄鋼会館会議室においてオリエンテーション、第2回（7/8）国立西洋美術館鑑賞（古代ギリシャ展）、日本科学未来館見学（スカイツリー建設映像）、第3回（9/15～17）富山・石川・福井・滋賀への研修旅行、第4回（12/8、9）研究発表会、国立新美術館（ノーベル賞関係展示）、日本庭園（小石川後樂園）鑑賞、第5回（3/7）贈呈式招待・最終例会予定。

表－4 第37回(平成23年度)岩谷国際留学生奨学金受領者一覧

No	氏 名	国 籍	大学・専攻	課 程	備 考
1	羅 炯 竣 男 NA Hyoung Jun 29才	韓 国	東 北 大 学 電 子 工 学	博 2	
2	裴 善 恵 女 BAE Sun Hye 27才	韓 国	東 京 大 学 農 学 国 際	博 2	
3	呉 泉 男 WU Quan 25才	中 国	総合研究大学院大学 遺 伝 学	博 2	
4	魏 秀 欽 女 WEI Xiu Qin 27才	中 国	千 葉 大 学 情 報 科 学	博 4	
5	王 曉 星 男 WANG Xiao Xing 26才	中 国	電 気 通 信 大 学 知 能 機 械 工 学	博 3	
6	ウイ-ラポン ジャンタチャイ 男 WEERAPONG Juntachai 29才	タ イ	東 京 工 業 大 学 分 子 生 命 科 学	博 4	
7	イサラ イッティラウィウォン 男 ISARA Itiravivong 25才	タ イ	国 際 大 学 M B A	修 2	H24年 6月迄
8	トウ ケック ティンガ 女 TOH Gaik Theng 33才	マ レ ー シ ア	東 京 大 学 メ ディ カ ル ゲ ノ ム	博 5	
9	ビヤンバ - バトサヤ 女 BYAMBAA Batzaya 25才	モ ン ゴ ル	東 京 大 学 ハ イ オ エ ン ジ ニ ア リ ン グ	博 2	
10	ティティン ファティマ 女 TITIN Fatimah 31才	イ ン ド ネ シ ア	京 都 大 学 都 市 環 境 工 学	博 6	

4. 広報活動

財団機関誌「needs」 vol.37 (2011)
「研究報告書」 vol.34 (2011)
を発刊

5. 収 支

経常収益（当期収入）は、予算額12,293万円に対し決算額は12,292万円で、ほぼ見込み通りとなりましたが、これは当財団の収入の大半が配当金（1株当たり6円）と寄附金（1,000万円）に依存しており、予想通りの配当と寄附があったことに因るものです。

経常費用のうち、事業費支出については9,849万円の予算に対し、決算額は9,668万円と181万円減となりました。これは、奨学助成金、贈呈式会場費・会食費、印刷製本費など5つの勘定科目で23万円～68万円の支出減があったことに起因しています。次に管理費支出については、予算額2,328万円に対し決算額は2,235万円と93万円減になりましたが、これは旅費交通費が当初の見込み額に対して76万円の支出減になったことが大きな要因となっております。

また経常収支につきましては、12,292万円の経常収益に対して経常費用は11,903万円ですので、経常収支差額は389万円の黒字となりました。

平成23年度の収支の概要は以上の通りでございます。

6. 主要事業日誌

年月日	内容
23. 2. 17	岩谷国際留学生研究助成候補者面接選考（20名）
3. 7	第76回理事会、第65回評議員会 ・ 第37期(平成22年度)事業報告及び収支決算報告承認 ・ 第19期選考委員2名追加選任承認 ・ 第38回(平成23年度)岩谷科学技術研究助成選考課題承認 第37回(平成22年度)記念賞及び研究助成金贈呈式
3. 15	平成23年度岩谷国際留学生奨学金受領者決定（10名）
5. 13	臨時理事会・評議員会（公益財団法人への移行に関する案件）
6. 1	第38回(平成23年度)岩谷直治記念賞候補者推薦依頼 第38回(平成23年度)岩谷科学技術研究助成候補者推薦依頼
6. 14	臨時理事会・評議員会（公益財団法人への移行に関する案件）
6. 16	臨時理事会（株主議決権行使承認：書面表決）
7. 7	最初の評議員の選定委員会
7. 22	臨時理事会・評議員会（公益財団法人への移行に関する案件）
7. 28	公益財団法人への移行申請
7. 31	岩谷科学技術研究助成推薦締切（140件）
8. 1	研究報告書(Vol.34)発刊 財団機関誌「needs」(Vol.37)発刊
8. 31	岩谷直治記念賞推薦締切（4件）
9. 22	第1回選考委員会（研究助成）
10. 27	第2回選考委員会（研究助成・記念賞）
11. 22	第77回理事会、第66回評議員会 ・ 平成24年度事業計画及び収支予算承認 ・ 第38回(平成23年度)記念賞（1件）・研究助成（20件）決定
12. 1	第38回(平成24年度)岩谷国際留学生候補者募集開始
12. 14	臨時評議員会（移行後の理事の選任）
12. 20	第38回(平成24年度)岩谷国際留学生候補者募集締切（427名）
12. 22	公益法人移行認定書受領